

第3学年 国語科

児童の実態（7月現在）

<p><実態の分析> 観点別結果の分析</p> <p>「読むこと」・・・叙述を基に読み取ることができてきている。</p> <p>「話すこと・聞くこと」・・・話の中心に気を付けて聞くことはできてきているが、質問や感想を述べるまでには至っていない。</p> <p>「書くこと」・・・自分の考えが明確になるよう書く力が不十分である。</p> <p>「言語」・・・習った漢字を文や文章の中で使えるまでには個人差がある。</p>

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>教師側が一方向的に課題をつくっている。</p>	<p>[指導]</p> <p>児童が興味を持ってその単元に取り組めるよう導入を工夫する。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>漢字小テストをこまめに実施し、習熟を図るとともに文章の中でも適宜使えるよう指導していく。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>一斉指導が多くなる。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>ペアやグループ学習を取り入れ児童同士の活発な授業になるようにする。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>国語辞典を活用してわからない語句や使いたい語句を調べる学習活動を取り入れる。</p>
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <p>ねらいを達成させるための発問ができていない。</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <p>児童の読みが深くなるような発問ができるよう日々の教材研究に時間をかける。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>国語辞典を活用してわからない語句や使いたい語句を調べる学習活動を取り入れる。</p>
<p>[教材の活用]</p> <p>視覚教材が教科書の挿絵のみとなっている。</p>	<p>[教材の工夫]</p> <p>電子黒板を効果的に使って児童の理解を促す。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>国語辞典を活用してわからない語句や使いたい語句を調べる学習活動を取り入れる。</p>
<p>[評価の方法]</p> <p>児童の読み取ったことや考えたことを評価できたが、評価しきれない部分もあった。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>評価の観点を明確にして適宜評価を積み重ねる。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>国語辞典を活用してわからない語句や使いたい語句を調べる学習活動を取り入れる。</p>
<p><評価・修正></p>		
<p>[評価] 単元ごとに身に付けたい力を明確にしながら学習計画を立てることができた。</p> <p>[修正] 児童が学習を振り返る時間を十分に取れなかった。評価に生かすためにも時間をしっかり確保する。</p>		

第3学年 算数科

児童の実態（7月現在）

<実態の分析>

観点別結果の分析

【考え方】・・・文章題になると問題の意図をつかめない児童が数人いる。

【技能】・・・計算技能が安定していて、既習の加減乗除が正しくできる。

【知識・理解】・・・時間や長さなど単位の換算を苦手としている児童が多い。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>教科書から入る導入が定番となっている。</p>	<p>[指導]</p> <p>児童が興味を持って取り組めるよう、児童の経験と重ねた導入を考える。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>朝学習や宿題で反復練習を行う。じっくりコースの児童には、基礎的な計算力の定着を図るとともに、スムーズにノートを書く、考えを図や式で表すことを繰り返し指導する。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>プレテストと児童の希望をもとに3コース展開で授業を行った。しかし自分に合ったコース選択が難しい児童も見られる。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>授業の様子を見ながら教師が適宜アドバイスし、单元ごとに少しずつ自分に合ったコースを選択できるようにしていく。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <p>じっくりコースの児童には、教科書の課題がすべて終わらないときがある。またチャレンジコースの児童は応用問題を用意しておく必要がある。</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <p>習熟の度合いによって、問題の数値を変えたりして練習問題の数を調節したりする。適宜応用問題も用意しておく。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>しっかりコースの児童には発展的な課題を用意したり、問題作りをしたりする。</p>
<p>[教材の活用]</p> <p>おはじき、時計など半具体物、具体物の活用がまだ必要。今後もそれらを効果的に使いながら進めていく。</p>	<p>[教材の工夫]</p> <p>必要に応じて電子機器を取り入れ視覚的に分かりやすくする。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>授業の時には、しっかりできていてもテストで思ったような点数を取れない児童もいる。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>テストだけでなく、授業内での発言やノートなどの状況も積極的に把握し、総合的に評価する。</p>	

<評価・修正>

[評価]

電子機器を活用したことで、視覚的に分かりやすく、学習内容の理解につながっていた。

[修正]

基礎・基本の定着が不十分な児童がいる。個別指導が必要である。

第3学年 社会科

児童の実態（7月現在）

<p><実態の分析></p> <p>観点別結果の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【思考・判断】…学習課題に対する考えを、自分の言葉でまとめられない児童が多い。 ○【技能・表現】…図や表、グラフなどの資料を読み取る力がまだ不十分である。 ○【知識・理解】…学校の周りや文京区の様子についてはよく理解している。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>教師が課題を設定することが多い。</p>	<p>[指導]</p> <p>単元の始めに、児童と一緒に課題を設定していく。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>家庭とも連携し、実生活にも生きる学習になるようにしていく。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>一斉指導が多くなっている。発表する児童が限られている。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>全員が自分の考えを発表できるよう、また、より活発な意見交換になるよう、グループ学習を取り入れる。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <p>板書が、児童にとって見やすく、思考が整理させるものになっているかは疑問である。</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <p>一単位時間の学びが一目で確認できる板書になるよう、板書計画を立てていく。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>「総合的な学習の時間」の学習とも関連させ、学習内容をより充実したものにできるようにしていく。</p>
<p>[教材の活用]</p> <p>図や表、グラフなどを十分に読み取らせることができていない。</p>	<p>[教材の工夫]</p> <p>電子黒板を活用し、図や表、グラフの読み取り方を丁寧に指導していく。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>児童が思考し判断したことを十分に評価できていない。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>毎時間ノートを集め、一人ひとり丁寧に評価していく。</p>	

<p><評価・修正></p> <p>[評価]</p> <p>課題、調べる、広げる、まとめ、振り返りといった一時間の流れを確立できた。</p> <p>[修正]</p> <p>児童の課題意識を持たせることが難しかった。導入を工夫する必要がある。</p>
--

第3学年 理科

児童の実態（7月現在）

<実態の分析>

観点別結果の分析

- 【思考・表現】…学習課題に対する自分の考えをもっている児童は多い。
- 【技能】…植物や昆虫など、丁寧に観察し、カードにまとめることができている。
- 【知識・理解】…植物や生き物の体の特徴を理解している児童は多い。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>教師が課題を設定することが多い。</p>	<p>[指導]</p> <p>単元の始めに児童から疑問を引き出し、それらを課題として設定していく。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>電子黒板やNHKデジタルコンテンツを積極的に活用する。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>一斉指導が多いのが現状である。</p> <p>発表する児童が限られている。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>多くの児童が自分の調べたことや考えたことを発表できるよう、グループ学習を取り入れていく。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画]</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>学習したことを活かして物づくりをしたり、学習したことを実生活に関連付けたりしていく。</p>
<p>[教材の活用]</p> <p>保護者の方にご協力いただき、昆虫を集めることができた。大変有難かった。</p> <p>今後は、昆虫採集が一つの課題である。</p>	<p>[教材の工夫]</p> <p>各班に一匹または二人に一匹、昆虫を提供できると、より観察が丁寧になり、学びも深まると考える。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>学習内容が難しくなってきたときに、思考判断の評価が難しくなってくると感じる。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>毎時間ノートを集め、児童がどのように思考し判断しているのか見取っていく。</p>	

<評価・修正>

[評価]

2学期以降は、保護者の協力のもと、一人一人に教材（実験キット）を提供することができた。教材を用いた学習をしたことで、学習内容の定着を図ることができた。

[修正]

考察（結果から分かったこと）を丁寧に扱うことで、学びをより深めていく。

第3学年 体育科

<実態の分析>

- 【技能】 …個人差や技能差は大きくあるが、どの子も「できるようになりたい」という思いで取り組んでいる。
- 【思考判断】 …作戦を話し合うことはよくできている。
- 【態度】 …意欲的に運動に取り組んでいる。全員が体育を好き、楽しいと感じている。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>個人のめあてやチームのめあてを十分に達成させることができていない。</p>	<p>[指導]</p> <p>個人やチームのめあてが達成できるような時間を設けていく。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>技能の向上を図れるよう、ICT機器を活用して、自分の動きや変容を見取れるようにする。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>学び合いが少ない。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>学び合えるよう、グループ編成を工夫していく。「技能程度が同じグループ」等。</p>	
<p>[指示・支援]</p> <p>技能分析が十分にできておらず、技能ポイントを意識した指導ができなかった。</p>	<p>[指示・支援の工夫]</p> <p>技能分析を行い、技能ポイントを明確にした学習資料を作成する。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>運動が得意な児童には難しい動きや発展的な技を紹介する。</p>
<p>[教材の活用]</p> <p>児童の実態、運動の特性に合った教具やルールを考えていく必要がある。</p>	<p>[教材の工夫]</p> <p>運動の特性をよく理解し、教材や教具を考えていく。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>児童の頑張りや伸び、成長を見逃さず、声をかけ、適切な評価をできるようにしていきたい。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>「何を」「いつ」「どこで」評価するのか、計画を立てて指導に当たっていく。</p>	

<評価・修正>

[評価]

学習形態（技能の程度が異なるグループ等）を工夫したことで、学び合いが活発になった。

[修正]

ICTの活用が十分でなかった。今後、活用方法について開発していく必要がある。

